



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第7号〉

風の色



歌川広重「木曾海道六拾九次之内 洗馬」

大判錦絵 天保8年(1837)頃 中山道広重美術館所蔵

櫓がきしむ音、さわさわと触れあう葭のざわめきが、風にのってこちらまで届いてくるよう。川のように、ゆつたりと流れるひととき。

歌川広重が描いた「木曾海道六拾九次之内 洗馬」。多くの人々がこの絵を前にして、感傷や郷愁を感じることでしよう。どこか心の奥底を揺り動かされる作品です。

「木曾海道六拾九次之内」は、五街道のひとつである木曾街道(中山道)の各宿場を溪斎英泉と歌川広重が描いているため、英泉と広重、それぞれの持ち味を味わうことのできるシリーズとなっています。そのなかで本作品はシリーズ中随一の優作です。

描かれているのは、木曾街道第22番目の宿場、洗馬宿近辺を流れる奈良井川に舟と筏が浮かぶ、一見なんということもない風景です。ところがここには様々な工夫が隠されているのです。

まず色彩。薄藍と淡い朱色、薄墨を重ねることによって刻々と表情豊かに変わる、夕方と夜のはざまを巧みに表現しています。柳越しに見える白い満月に、淡く朱色がかかっているのも効果的な表現です。

そして構図。2本の柳が今にも倒れそうなほど大きく右にかしんでいます。試しにこの柳を直立させた図を想像してみてください。大変さっぱりとした味気ない絵になるのではないのでしょうか。つまり柳の幹を斜めに描くことによって画面にある種の不安定さ(これが私たち鑑賞者の心に揺らぎを生み出しているのです)を与えているのです。しかし、柳により崩れた画面全体のバランスは、2人の船頭とそれぞれの斜めになった櫓を巧みに配置することによって、ぎりぎりのところで保たれているのです。

だからといって、この絵からは作為が感じられません。あくまでも自然に、まるで見てきたかのように描く。こうしたところが、広重が風景画の名手とされ、多くの人々に親しまれている理由ではないでしょうか。

茨城県天心記念五浦美術館

見学会に寄せて

小口 アイ子（馬頭町）

美術館は、素敵な作品と出会う場所。その中に展示されている作品を心地よく鑑賞出来て、その時の作品、そしてその作品を描いた絵師の一筆、一筆の、一点、一線の心が掴みとることができたなら、きつともっと素晴らしい感動の動悸を覚えるでしょう。その感動を感じたく、今回の見学会に参加しました。

茶道の紹介を通して東洋文明、日本人の美意識を洗練された心で世界に広めた事、渡米の途中でめぐり逢



茨城県天心記念五浦美術館前にて

った女流詩人（ブリヤンバダ）との出会いで其の想いは絶ちがたく、没するまでの一年間程の間の19通の恋文に晩年の秘められた心境が凝縮された事等々、国際人としての天心を初めて垣間見る事が出来ました。

又、「上村松園・松篁・淳之展」では三代のその年代に添った生き様を、親・子・孫の個性を、豊かに観る人に訴える作風に感嘆致しました。松園の、京文化の格調が滲み出ている時代時代の人物像には内面の美しさまでもが理想的に、それこそ氣品を漂わせて表現されており、魅入つてしまいます。更に子松篁、孫の淳之に至っても優美なる花鳥画、展覧会には三代に受け継がれた美の系譜がとことん紹介されていました。

私は福島県いわき市出身で、五浦と記憶しており、学芸員の方に五浦は地元の方で訛った名称と伺いました。野口雨情記念館裏の海で飛行機に手を振ると、三回程施直し、興奮した事、そして空の青、海の色の透き通った波の飛沫は、今でも感動が蘇って参ります。

小名浜で昼食の際には友人・叔父・叔母に電話をかけ、懐かしさ親しみを胸一杯吸って、大好きな海の香・魚・海雲等を土産品として、心躍る心地に酔って馬頭に帰りました。

友の会見学会に参加して

平野 千代子（鳥山町）

友の会の見学会には、前々回の江戸東京博物館に初めて参加し、前回の東海道広重美術館にも参加し、楽しい旅でした。今回の茨城県天心記念五浦美術館の見学会に、主人と妹と3人で参加しました。

五浦には何度か行ったことがありますが、美術館は初めて。馬頭を8時に出発し、2時間余りで美術館に到着。バスから降りてびっくり。ここが断崖の上とは思えぬ静かな所に建つ美術館は、素晴らしい立派な構えで植え込みもきれいに手入れされ、入口の脇には澄んだ水が流れていて、それだけで私達を和ませてくれました。入口を入ると広いロビー、すぐに「上村松園・松篁・淳之展」の展示場に入ります。

最初に松園の作品を見ます。印刷のものは時々見たことがあるが、本物は初めて。穏やかで氣品あるふつくらとした頬の線、身に付けた着物の柄、帯の結び方、色の具合。それぞれ本当に女性らしい氣品高い感じのする作品ばかり。流石に文化勲章を受章された女流画家、本当に心から癒されました。

又、松篁と淳之の優美な花鳥画も目を見張るものばかり。花びらや葉

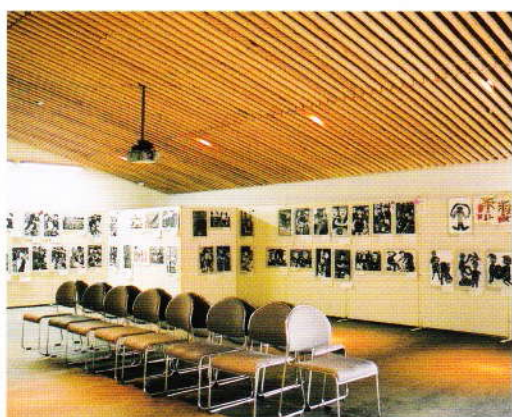
っぱの一枚一枚、鳥の羽等、実に巧みな描写。

じっくり鑑賞し、少々興奮気味で美術館を後にし、小名浜で昼食を食べ、アンコウを買って帰り、主人と二人、鍋を楽しみました。本当に楽しい一日でした。次回の見学会にも是非参加したいと思います。

「馬頭町広重美術館 版画コンクール」開催

2月17日から3月7日まで、馬頭町広重美術館版画コンクールが開催されました。今回で2回目となる版画コンクールには、小学生の部322点、中学生の部118点、一般の部2名の応募作品がありました。

入選者の作品は視聴覚室に展示され、来館者の目を楽しませていました。



版画コンクール会場風景



展示室にて活動するボランティア

ボランティアと私

小瀬沢 千恵子（馬頭町）

50歳を過ぎてそろそろ退職後の生活を考えていた私は、在職中から町の人達と繋がりを持った活動がしたいと考えていました。十数年町外の職場に通っていたためか、スーパーに買い物に行っても知らない顔ばかり。退職後の生活に不安を感じていたのです。

そんな時に広島美術館の開館により、ボランティア活動にめぐり会えたのは、本当に幸運でした。2年余り仕事と両立し、退職してから1年になりますが、その間希望通りに大勢の人達と知り合うことが出来、充実した毎日が過ごせています。

来館者との接遇は、いろいろ学ばせてくれ適度な緊張感が心の張り

なり、ボランティアは、まさに自分のための活動だと実感している現在です。これからも先輩方の足手まといにならないよう、勉強しながら私なりの活動をしていきたいと思っています。

訂正

前号に誤りがありました。ここに訂正を記してお詫び申し上げます。

「久能山東照宮にて詠む」

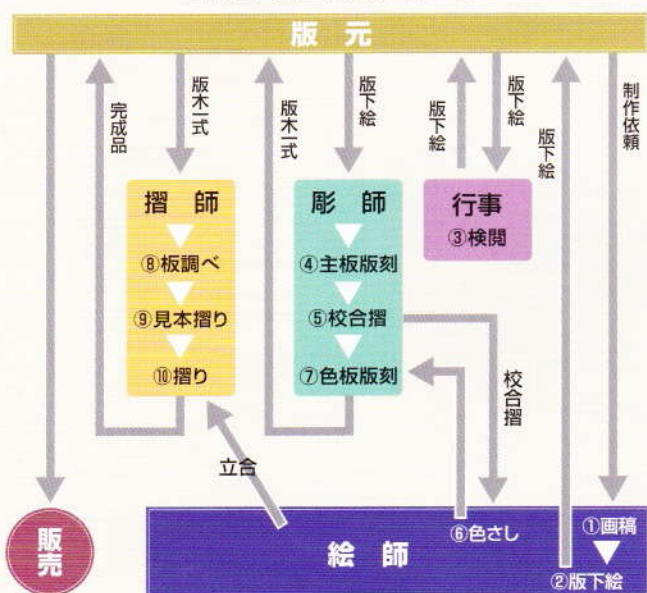
（誤）枕を頼り手摺に頼りて

（正）家康公の神廟の前に深く礼せり

杖を頼り手摺に頼りて

（正）家康公の神廟の前に深く礼せり

錦絵の出来るまで



浮世絵入門シリーズ「浮世絵ってなんだ？」

「浮世絵版画の制作①」

このコーナーでは、浮世絵に関する基礎知識を紹介していきます。今後、皆さまが浮世絵をご覧になるにあたり、その鑑賞に深みを与える助けとなれば幸いです。

さて記念すべき第一回目は「浮世絵版画の制作①」。木版画である浮世絵版画はどのような手順で作られているのか。当館でも良く耳にする質問です。

左の表をご覧ください。浮世絵というと、だからといって絵師の地位が低くなると歌川広重ら絵師の名前だけが有名ですが、いうことでもないでしょう。人々を魅了した実様々な人の手を経て一枚の絵が作り出されています。

出版社にあたる版元、版下絵（版画の原画）を描く絵師、版木をつくる彫師、それを摺り上げる摺師。こうして見ていくと一枚の作品の背景には、絵師の意図

とは別に、なるべく売れる絵を作りたい版元の意向や、彫師、摺師の腕前もかわってくるということが想像されるでしょう。その一方で「なあんだ。絵師は下

絵を描くだけか。」という声も聞こえてきそうです。確かに浮世絵の魅力はその木版技術の高さにもあります。けれども、

錦絵の企画が出ると絵師は①画稿を制作し、それをもとに②版下絵を描く。版元は版下絵を③検閲に出し、改印と呼ばれる検閲（出版許可印）を貰う。彫師は受け取った版下絵を裏返しにして版木に直接貼り、まず輪郭だけの④主版を版刻する。これを摺ったものが⑤校合摺。絵師は校合摺に、朱筆で絵の色指定（⑥色さし）を行い、彫師は色ごとに⑦色板を彫る。版木が一式完成すると、摺師はまず一度摺って色にズレがないかなど⑧板調べを行う。板の修正後、二、三十枚⑨見本摺りをして色のバランスを見たのち、⑩摺りに取りかかる。一度に摺ったのは二百枚ほどと言われる。

今後の展覧会予定

町村合併50周年記念特別展「中山道広重美術館所蔵 木曾海道六拾九次展」

●会期

4月15日(木)～5月16日(日)

「木曾海道六拾九次」を展示し、併せて街道を旅する人や各宿場の風俗をも紹介します。中山道広重美術館所蔵の作品は摺りの鮮やかな初摺を、多く含む質の高いものです。全作品が展示されるこの機会にふるって鑑賞下さい。(特別展料金となります。)

●記念講演会「木曾海道六拾九次を楽しむ」

中山道広重美術館学芸員 菅原真弓氏
5月1日(土)

●ミュージアムトーク(展示解説)

町村合併50周年記念特別展 中山道広重美術館所蔵 木曾海道六拾九次展

4月15日(木)～5月16日(日)
ミュージアムトーク=4月17日・24日
5月15日(全て土曜日)

記念講演会=5月1日(土)
「木曾海道六拾九次を楽しむ」
中山道広重美術館学芸員 菅原真弓氏



漢堂英泉「支那路/藤河渡 長柄川舟船」中山道広重美術館所蔵

■特別展観覧料=大人800円(720円) 高大学生500円(450円) 小中学生150円(135円)

企画展 近代版画に見る広重の残照展

5月20日(木)～6月27日(日)
ミュージアムトーク=5月22日・6月12日・19日(全て土曜日)
記念講演会=6月5日(土)「浮世絵入門」
国際浮世絵学会常任理事 新藤 茂氏

企画展 幕末・明治の浮世絵美人画展

7月1日(木)～8月1日(日)
ミュージアムトーク=7月3日・17日・24日(全て土曜日)
記念講演会=7月10日(土)「幕末・明治の美人画について」
国際浮世絵学会理事 橋本健一郎氏

町村合併50周年記念企画展 江戸の旅 東海道五拾三次展

8月5日(木)～9月5日(日)
ミュージアムトーク=8月7日・21日・28日(全て土曜日)
記念講演会=8月14日(土)「広重の東海道五拾三次について」
当館学芸員 市川信也

町村合併50周年記念 開館4周年記念 特別展 砂子の里資料館所蔵 浮世絵名品展

前期=9月10日(金)～10月11日(月・祝) 後期=10月15日(金)～11月14日(日)
ミュージアムトーク=前期 9月11日・25日・10月2日(全て土曜日)
後期 10月16日・30日・11月6日(全て土曜日)
記念講演会=
9月18日(土)「砂子の里資料館所蔵の浮世絵コレクションについて」(仮題)
砂子の里資料館館長 斎藤文夫氏
11月3日(水・祝)「浮世絵の流れ」(仮題)
国際浮世絵学会常任理事 新藤 茂氏
■特別展観覧料は別途料金になります。お問い合わせ下さい。

企画展 青木コレクション名品展

11月19日(金)～12月23日(木・祝)
ミュージアムトーク=11月20日・12月4日・11日(全て土曜日)

企画展 広重・ふたつの富士三十六景展

平成17年1月5日(水)～2月6日(日)
ミュージアムトーク=1月8日・22日・29日(全て土曜日)

企画展 浮世絵・合筆の時代展

2月10日(木)～3月13日(日)
ミュージアムトーク=2月12日・26日・3月5日(全て土曜日)

企画展 光と影の浮世絵師 小林清親展

3月17日(木)～4月17日(日)
ミュージアムトーク=3月19日・4月2日・9日(全て土曜日)

当館学芸員 4月17日(土)・24日・5月15日(土)

企画展「近代版画に見る広重の残照展」

●会期 5月20日(木)～6月27日(日)

幕末の浮世絵界で活躍した初代歌川広重や、大正期の伊東深木、川瀬巴水の作品により、錦絵から近代版画の移り変わりを紹介いたします。

●記念講演会「浮世絵入門」

国際浮世絵学会常任理事 新藤 茂氏

6月5日(土)

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 5月22日(土)・6月12日(土)・19日(土)

企画展「幕末・明治の浮世絵美人画展」

●会期 7月1日(木)～8月1日(日)

江戸から明治に移り変わる激動の時代の女性のファッションを、当時活躍していた歌川広重、三代歌川豊国、楊

州周延、月岡芳年らの浮世絵でご紹介いたします。

●記念講演会「幕末・明治の美人画について」

国際浮世絵学会理事 橋本 健一郎氏

7月10日(土)

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 7月3日(土)・17日(土)・24日(土)

町村合併50周年記念企画展「江戸の旅 東海道五拾三次展」

●会期 8月5日(木)～9月5日(日)

歌川(安藤)広重の出世作であり、代表作の「東海道五拾三次之内」(俗に保永堂版東海道)を、日本橋から京まで一挙に公開いたします。

●記念講演会「広重の東海道五拾三次について」

当館学芸員 市川信也 8月14日(土)

●ミュージアムトーク(展示解説)
当館学芸員 8月7日(土)・21日(土)・28日(土)

町村合併50周年記念・開館4周年記念特別展「砂子の里資料館所蔵 浮世絵名品展」

●会期

前期/9月10日(金)～10月11日(月・祝)
後期/10月15日(金)～11月14日(日)

神奈川県川崎市の「砂子の里資料館」では、同市在住の斎藤文夫氏により収集された浮世絵を公開しています。名品や稀品が多く含まれたコレクションは、我が国に有数の充実した内容を誇っています。本展覧会では、その中から江戸初期から大正期までの浮世絵の歴史を語るにふさわしい名品の数々が出品されます。(特別展料金となります。)

●記念講演会「砂子の里資料館所蔵の浮世絵コレクションについて」(仮題)

砂子の里資料館館長 斎藤文夫氏

9月18日(土)

●記念講演会「浮世絵の流れ」(仮題)

国際浮世絵学会常任理事 新藤 茂氏

11月3日(水・祝)

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員

前期/9月11日(土)・25日(土)・10月2日(土)
後期/10月16日(土)・30日(土)・11月6日(土)

※記念講演会、ミュージアムトークは全て午後1時30分から

馬頭町広重美術館友の会 エース 第7号
平成16年3月15日発行 編集発行/馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭1-16-9
TEL 0287-621116 FAX 0287-621177
http://www.hiroshige-bato.tochigi.jp/